



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：米特殊部隊が在ベンガジ米領事館襲撃事件の容疑者を拘束

6月17日、ホワイトハウスは、2012年9月の在ベンガジ米領事館襲撃事件の主要な容疑者であるアフマド・アブー（ブー）・ハッターラ（Ahmad Abu Khattalah）を拘束したと発表した。同事件では、クリス・スティーブンス大使らが殺害された。ハッターラ容疑者は、イスラーム過激派「アンサール・シャリーア」の幹部とされる。

ホワイトハウス発出の声明によると、15日、米国の特殊部隊が連邦捜査局（FBI）と協力してハッターラ容疑者を拘束したという。同声明では、「この作戦で、米国は国民に危害が加えられたときは正義を実行するということを再び証明した」と述べた。作戦の詳細は明らかにされていない。現在、ハッターラの身柄は米国に移送中である。

「アンサール・シャリーア」は、リビア、チュニジア、アルジェリアなど北アフリカ諸国で活動するイスラーム過激派である。リビアでは、5月中旬にハフタル將軍率いる軍部隊が国軍司令部の命令なしにベンガジでイスラーム過激派掃討作戦（「尊厳作戦」）を開始したが、その交戦相手が「アンサール・シャリーア」であった。

ハッターラ容疑者が拘束される数日前の6月10日、ハフタル將軍側とイスラーム主義勢力との停戦交渉が行なわれたが、これにハッターラ容疑者が参加していたという。また、拘束された当日は、ベンガジで両勢力による最大規模の戦闘が行なわれ、少なくとも57人が死亡、72人が負傷した（『リビア・ヘラルド』17日付）。ハフタル將軍のイスラーム主義勢力掃討作戦においては、背後に米軍の支援があるのではないかと一部メディアで報道されていた。その関係から、今般のハッターラ容疑者拘束においても、米軍とハフタル將軍との間に何らかの取引があったのではないかと推測が報道されているが、ハフタル將軍側報道官は米特殊部隊の作戦について何の情報も事前に得ていなかったと述べている（『リビア・ヘラルド』17日付）。

（金谷研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799